

「除災招福」
「心願成就」
「コロナ退散」

おんたけさんやまとほんぐう

御嶽山大和本宮

さんばらぐう

擗抬擗摺宮

つきなみさい

月次祭のおしらせ

毎月十五日 午後二時

擲拾擲擲（サンバラ）の由来は、インドのサンスクリット語の「samvara 三跋羅（サンバラ）」で、身を制するの意味です。身・口・意（しん・く・い）の悪を防ぎ、受戒によって六根を護る働きがあり悪業(あくごう)や過失に陥ることを防ぐとされています。そこから「難を逃れる」「九死に一生を得る」「弾除け」「除災招福」「心願成就」などの神徳が流布されて、崇められています。



「^{さんばらぐう}揜拾揜揜宮」奉斎の由来

御嶽山大和本宮

サンバラ(Sambara) またはシャンバラとは、本来はインド神話に登場するアスラ神族の名前である。サンスクリット語の Śambara を仏教では三跋羅・三婆羅(サンバラ)と言い、「律儀または禁戒」と訳す。身、口、意の悪を防ぎ、六根をまもるはたらきのある戒体。受戒によってそのはたらきが生ずるところから「難を逃れる」ともされている。

平安末期の武将の位牌に「揜拾揜揜」四文字が綴られていたとか、中国の新王朝(8~23年)の厭勝銭(護符)のひとつに、サンバラ(サムハラ)銭があったとか、孔子の弟子の曾子が死に際(BC505)にサムハラに祈ったとか、の故事がある。

我国においては、太閤秀吉がこの四字守は終生身から離さなかったといい、征韓の際、加藤清正はこれを分霊して刀身に彫り、数回の危機を脱し、遂に清正の御守と持てはやされ、後に徳川家治の小姓新見感之助、紀州侯の徳川光貞等もその奇瑞をうけたと伝えられている。また日清・日露の戦争の際にこの神符を所持して銃弾などから免れたとの言い伝えがある。そこから「難を逃れる」「九死に一生を得る」「弾除け」などの神徳が流布されて、崇められるようになったらしい。

御嶽教においては、渡邊銀治郎第八代管長が、昭和十六年にその著「祈祷禁厭神占宝典」の中でその効験について紹介されている。令和二年(2020)に井上慶山第十三代管長が先の「宝典」を解説上梓する作業の途上で「大和本宮に奉斎せよ」との御神託を得て、ここに「揜拾揜揜宮(さんばらぐう)」を奉祀することとなった。その御祭神は御嶽信仰の源流と目される「^{おんたけさんざおうだいごんげん}御嶽山座王大権現・^{ぶそんざんだいごんげん}武尊山大権現・^{いばらさんだいごんげん}意波羅山大権現」の三神としている。

「揜拾揜揜」の四文字自体が「怪我・災難を除ける護符(神字)」とされ、サンスクリット語の「三跋羅(サンバラ)」という言葉に由来する「幸福の維持・用意・収集・養育、静かで穏やかなこと、平和など」の意味がある。また「気」のエネルギーにもかかわるともされ、宇宙森羅万象の気を整えて、世のゆがみを正道にもどす、と説かれている。

「揜拾揜揜」の御真言は、「オン バラ バラ サンバラ サンバラ アビラウンケン ソワカ」である。これは観音菩薩の化身で、多くの真言護符の所持者である大随求菩薩(だいずいくぼさつ)真言と御嶽山座王大権現の真言に依るものである。

御真言を念誦することにより靈験は正にあらたかで、特に「罪業消滅」「敬愛成就」「疫病調伏」「悪霊降伏」「除難息災」「護身加持」「増益豊穰」などが顕著である。

最近では、パワーストーンが若者にも人気があり、「敬愛成就」に効験のあるお守り、宝珠守り(ブレスレット)、頸飾守り(ネックレス)、指環守りなどが好まれている。

御嶽山大和本宮において、「^{サンバラ}揜拾揜揜守(カード守り)」や「^{サンバラ}揜拾揜揜」四文字刻印のルチルクォーツの宝珠守り(ブレスレット)、頸飾守り(ネックレス)、指環守りなどが授与され、その効験あらたかなことで評判になっている。